

海軍関係部隊としては才五根拠地隊と航空部隊の一部が所在したが才五根拠地隊も才一線部隊としての兵備はなく航空部隊も主力は南方に推進し敵機来襲に方つて迎撃に出動し得る機数は僅か十数機に過ぎなかつた

この他サイパンは南方への推進基地であつた為船を待つて更に南方へ行くべき所謂通過部隊（照、柏部隊）もいた為作戦、战斗指導も却つて困難の度を増加した

右のような状況であつた上に偶々才三十一軍司令官は南方グアム島に視察中であり又主力部隊である才四十三師団諸隊は到着後一ヶ月を経ていない上に海没部隊収容者の病院収容治療並びに改編処置も終らない中等あらゆる悪条件のままに敵上陸を迎えたという実情であつた

才二、才四十三師団战斗の概要

一、編成よりサイパン島到着迄

昭和十九年四月二十一日動員下令、同月二十五日動員完結、同年五月九日と五月二十九日の二次に亘り横浜にて乗船、各サイパンに向つたが才一次船団は途中事故なく五月十九日サイパン島に到着才二次船団は六月四日勝川丸、六月五日高岡丸、六月六日「はあーぶる」丸と米潜水艦のため撃沈せられ同船団に乘船していた歩兵才百十八聯隊は聯隊長伊藤大佐以下殆んど主力を失い海軍護衛艦に收容せられて六月七日サイパン島に到着したものは約一〇〇〇名でしかも重症患者（火傷）多く病院に收容し得ない数も相当多数に上つた生存者中の主なる幹部は左記の通りであつた

大隊長 山崎少佐、大塚少佐

師団衛兵長 鈴木大尉

聯隊旗手（聯隊旗共）

經理勤務部長 大川主計中佐

二 各部隊の戰鬥經過の概要

八 第四十三師団全般

六月 十一日 敵空襲開始

六月 十三日 敵艦砲射撃開始

同日夜師団司令部はかねて予定してあつたチャラ
ンカノア北東、ヒナシス北方約一〇〇〇米の南興
神社附近の戦斗司令部附近に移動す
該地は天然の浅い洞窟があるだけで陣地構築は何
等されていなかった

六月 十五日 敵上陸開始

水際逆襲の為次の兵力を注入した
戦車才九聯隊の主力（聯隊長五島大佐）
歩兵才百三十六聯隊才三大隊（大隊長野々村大尉）
歩兵才十八聯隊の一ヶ大隊（テニヤン島に移動す
べき部隊で未だ留島していたもの）（大隊長河村
少佐）

○九派遣隊（部隊の正式稱呼は不明であるが独立
歩兵大隊か？）（隊長有馬大佐）

註

これら等の部隊の将兵は勇戦奮斗して一時は上陸した米軍
を水際に迄逆襲したがその後の米軍の回復攻撃により全員
戦死したものである

軍命令によりサイパン島北部地区の守備に任じていた歩兵
才百三十五聯隊は軍の直轄とせられ師団の作戦地域は島南
部に局限せられた

六月

十六日 夜暗に乘じ師団の全力を以てする水際逆襲

このため左記の部隊は大半戦死した

歩兵才百三十六聯隊才一大隊（大隊長安藤大尉）

歩兵才百三十六聯隊才二大隊（大隊長福島大尉）

才一派遣隊（デニヤンに移動すべく待機中の部隊）

（隊長岡大佐）

前夜の残存部隊

この逆襲は敵の組織的な抵抗に遇い、全員戦死と思惟される戦車聯隊長五島大佐及び軍参謀橋口少佐も戦死と判定される

六月十七日 敵上陸後の戦斗として最も劇烈であつたヒナシス

山の争奪は遂にこの日敵の有に帰したこの地区の戦斗に参加した部隊は次の通りである

才一派遣隊の一部

独立工兵才七聯隊の主力（長小金沢大佐）

歩兵才百十八聯隊才一大隊（長山崎少佐）

註 独立山砲兵才三聯隊の各部隊特に十五榴大隊（長黒木少佐）

は其の火砲大半を失う迄奮戦し、同日黒木少佐及び師団兵器部長寺尾少佐戦死

六月十八日 歩兵才百三十五聯隊を再び師団に復帰させられ師

団は全島の戦斗を指揮すべく命を受く

八

六月 十九日

師団戦斗司令所に敵艦砲の直撃を受け司令部内に
死傷続出す

軍司令部よりドンニ地区への後退を命ぜられる

六月 二十一日

師団戦斗司令所はチャチャに後退

六月 二十二日

高射砲才二十五聯隊（長新穂大佐）及び独立山砲
兵才三聯隊（長中島中佐負傷し山根大尉指揮）は

軍直轄となる

註

中島中佐負傷により後任を命ぜられた山崎隣敬中佐（野戦重

砲兵学校より巡回教育の為派遣中）はガラパン附近軍戦斗

司令所より独立山砲聯隊の観測所に至る途中敵砲弾の為戦

死

六月 二十四日

師団司令部は通稱電信山洞窟（三四六高地）に後
退し軍司令部と合一するよう命ぜられた

0961

六月二十八日

この日頃迄に歩兵才百十八聯隊は残存指揮官大塚少佐戦死し名実共に歩兵才百十八聯隊は消滅した

六月二十九日

軍司令部、師団司令部は海軍の司令部と合一してマタンシヤ東方谷地（通稱地獄谷）に後退した

七月一日

タツボーチヨ山附近の防禦に任じていた歩兵才百三十五聯隊の退却に方り時間的齟齬を生じガラバシ附近の海軍部隊及び司令部大隊（軍司令部職員を以て編成した混成部隊隊長西山中佐）は敵中に残され包囲攻撃を受け全員戦死したものである

七月二日

ドンニ一附近の防禦に任じていた歩兵才百三十六聯隊残存部隊（聯隊長小川大佐）は後退し復郭陣地に入つたものは一兵もなかつた

七月四日

軍及師団戦斗司令所に再び集中砲撃を受け軍司令

九

0962

部、師団司令部内及び其の附近に蟄集していた所
属不明の部隊に多くの死傷者を出した

七月

五日

このとき才三十一軍高級参謀田中大佐戦死
傳令の報告により歩兵才百三十五聯隊はタツポ

チヨ山及びタツポーチヨより復郭陣地に至る退却
戦斗中殆んど全滅したと判明

七月

六日

艦隊司令官南雲中将、才三十一軍司令官代理、才

四十三師団長齊藤中将、才三十一軍参謀長并祐少

将は午前十時、地獄谷洞窟内にて夫々目決した

七月

七日

午前三時所在の兵力を集め最後の総攻撃を敢行し
た本攻撃に於ては師団が確実に掌握していた部隊
はなく混成の約三〇〇〇名をもつて之に充てた

才四十三師団司令部 譽一一九三一

イ陣地の位置

0963

昭和十九年五月十九日サイパン島に上陸陣地を逐次次に記載したように移動した

口 戦 斗 の 概 要

五月十九日 サイパン島に上陸チャランカノア小学校に位置

した

六月一日 師団通信一分隊をメレオン島に派遣した

六月十三日 ヒナシス北方山地内南興神社戦斗司令所に移る

暗号掛小川伍長以下七名戦死

六月十六日 水際逆襲の爲戦斗司令所を才一線に進出させる

管理部長瀧輪重前田大尉副官部書記島田曹長戦

死

六月十九日 軍命令により師団司令部をタツボーチ北側地

区に後退した

六月二十一日 師団司令部をドンニ地区に後退した

六月二十五日 電信山司令部と合体した

六月三十日 地獄谷戦斗司令所に移動した師団長当番兵伊東

上等兵戦死

七月 六日 師団長目決

七月 七日 全員逆襲により師団司令部としての指揮を終る

3. 歩兵才百三十五聯隊

昭和十九年五月八日横浜港出帆、同五月十九日サイパン島に上陸
イ陣地の位置

当初クナバク南方地区以北のサイパン島北部

米軍上陸直後軍直轄となり再び才百三十六聯隊守備地区（ガラ

パン南方西海岸）（敵上陸正面）に注入せられ逐次タツボーチ

ヨ山に後退更に師団命令により旧電信山附近復郭陣地に後退

口 戦斗の概要

六月 一日 才一大隊をテニヤン島機関銃小隊一（小隊長井

六月十七日

上博中尉（歩兵砲小隊一をメレオン島に派遣
才百三十六聯隊地区に救援才百三十六聯隊は上
陸防禦戦斗及び逆襲の爲既に組織的防禦をなし
あらず隨所に才一線に進出

六月十九日

逐次敵に圧迫せられ遂にタツボイチヨに退却の
余儀なきに至る

六月二十日

一時電信山附近にて戦線整理

六月二十六日

師団命令により旧電信山附近の複郭陣地に後退
せるも隨所に敵と遭遇玉碎した

七月二日

当日軍旗を捧じ聯隊長の掌握していた兵力は約
四（五）百名であつた万一の場合を慮り軍旗を
師団司令部に移した

七月七日

総攻撃により殆んど全員戦死した

才百三十六聯隊

昭和十九年五月八日横濱港出帆、全五月十九日サイパン島に上陸
イ陣地の位置

当初ガラパン南方地区以南ススベ岬に至る西海岸爾後ドンニ
地区に集結

口戦斗の概要

六月十五日 敵上陸戦斗に際し才一線陣地の手兵の大半を失

う師団予備隊であつた才三大隊（長野々村大尉）
は敵を水際に逆襲して全員戦死

六月十六日 才一大隊（長安藤大尉）は全力を以て水際逆襲
を行い全員壮烈なる戦死を遂ぐ

六月十八日 ドンニ地区に集結

爾後七月十八日に至る間に各個に包囲撃滅せら
る

歩兵才百十八聯隊

0967

昭和十九年五月二十九日横浜乗船サイパン島に向う途中昭和十九年六月四日（勝川丸）六月五日（高岡丸）六月六日（はあまぶる丸）輸送船全部敵潜水艦のため撃沈せられ六月七日サイパン島に上陸したのは護衛驅逐艦に救助收容せられた約一〇〇〇名に過ぎない

イ 陣地の位置

海没部隊としてチャランカノアに於て兵器、被服の交附中に敵上陸に際会した為特に陣地を配当することなく掌握した兵力を師団予備として遊動的に使用された

ロ 戦斗の概要

六月四五六日 輸送船撃沈により聯隊長伊藤大佐以下三分の二の兵力を失う

六月十八日 才一大隊（長山崎少佐）はヒナシス山附近の戦斗に於て大半戦死した

六月二十二日

才三大隊（寒兵力一箇中）を基幹として聯隊を指揮していた大塚少佐以下大半チャチャ附近に於て戦死

六月二十七日

神田大尉の掌握した兵力は二十七名タツボーチヨ東側高地内で戦死し歩兵才百十八聯隊は茲に全員玉碎した

6. 才四十三師団通信隊

昭和十九年五月八日横浜港出帆同五月十九日サイパン島に上陸
戦斗の概要

敵爆撃開始以来通信網は完膚なき迄に破壊せられ隊長駕津大尉以下その補修に小部隊毎の独立行動中大半戦死
六月一日その一分隊をメレオン島に派遣した外的隨を資料なく隨所に戦死したものであると思惟される